

情報と変数

——L. フロリディ「抽象の階層」の射程——

細川 雄一郎 (Yuichiro Hosokawa)

群馬県立女子大学

L. フロリディは情報の哲学と情報の倫理の前衛的開拓者として近年ますますその名が知られるようになっていく。

しかしながら、一方で彼の仕事は、——彼の近未来的なフレーバーをまとう用語や概念群にもその要因があることは否めないが——その中の一見新奇に見える部分や、一見極端に見える論争的主張の部分が目撃され、国内外において正確にそのあるべき姿で正当に評価されているとは言いがたい状況である。

他方で、実際に彼の一連の原典に直接あたってみれば（あわせて彼の出自を少し調べてみれば）、彼の学説が、古代から現代におよぶ広大な哲学史（彼の受けた大学での教育はそこから出発している）、分析哲学（彼の学位論文はあの M. ダメットのもとで提出されている）、プラグマティズム（彼はその後、分析哲学よりも C. S. パースの重要性に目を転じている）から得た重厚な哲学的知見の蓄積と、さらには、計算機科学（彼はチューリングの哲学的重要性を説いており、最近では計算量理論（計算複雑性理論）の哲学的意義も強調している）、情報理論、ソフトウェア工学（特にオブジェクト指向プログラミング）、現代論理学、数学、物理学といった、幅広い先端科学の基礎概念に関する、偏りなくバランスのとれた、一定水準の技術的理解の蓄積とを、その重層的背景としていることが見て取れるだろう。

以上のような状況の中で、彼の著作に一貫して自身の情報の哲学と情報の倫理の根幹をなすものと明示されているにもかかわらず、とりわけ知られていないのが、「抽象の階層（a level of abstraction）」の概念である。ところで、この「抽象の階層」の概念はじつは、「観察可能なものたちの非空な有限集合（a non-empty finite set of observables）」として、簡潔に定義されている。さて、ところで、翻ってこの定義の中に現れる「観察可能なもの（an observable）」は、「解釈された型つき変項（an interpreted typed variable）」として、簡素に定義されている。つまり、彼の情報の哲学と情報の倫理は、結局のところ、その最も根底的な基礎の部分で、“variable”、すなわち、ある種の「変数」概念に依拠している（！）、ということである。

こうして本発表では、まず、L. フロリディの「情報」概念——それはじつは種々あるが、正確にはその存在論の基礎をなす「情報的対象（informational object）」の概念——の基礎にある「抽象の階層」概念が、一見するよりも遥かに広い射程（遍在性）をもつことを紹介し、次に、その基礎にある「観察可能なもの」の概念、そのさらに基礎にある「変数」概念の掘り下げを行う予定である。

文献

- [1] L. Floridi. On the intrinsic value of information objects and the infosphere. *Ethics and Information Technology* 4, 287-304, 2002.
- [2] L. Floridi. *The Philosophy of Information*. Oxford University Press, 2011.
- [3] L. Floridi. *The Ethics of Information*. Oxford University Press, 2013.
- [4] L. Floridi. *The Logic of Information*. Oxford University Press, 2019.